AKIKO

与謝野晶子（文化学院蔵）

与謝野 晶子文芸館
YOSANO AKIKO MUSEUM

晶子略年譜

1878年　12月7日、堺県甲斐町に和菓子商駿河屋二代目鳳宗七の三女として誕生。戸籍名は志よう。
1888年　新設された堺女学校（現在の大阪府立泉陽高校）へ転校。
1892年　堺女学校卒業。
1896年　堺敷島会に入会。
1899年　浪華青年文学会（後の関西青年文学会）堺支会に入会。
1900年　5月、新詩社の同人となり、『明星』2号に初めて短歌が掲載される。
11月、鉄幹（寛）・山川登美子とともに、京都永観堂の紅葉を鑑賞。粟田山で一泊。
1901年　6月、上京。8月、歌集『みだれ髪』刊行。9月、鉄幹と結婚。
1904年　9月、『明星』に「君死にたまふこと勿れ」を発表。
1905年　詩歌集『恋衣』（山川登美子、増田雅子との共著）刊行。
1908年　『明星』終刊。
1909年　『源氏物語』現代語訳執筆開始。
1911年　9月『青鞜』創刊号に詩「そぞろごと」（後に「山の動く日」と改題）を発表。
11月、鉄幹渡欧。
1912年　2月、『新訳源氏物語』（全四冊）刊行開始。5月、鉄幹の後を追ってパリへ出発。
10月、帰国。以後、評論活動に力を注ぐ。
1913年　1月、鉄幹帰国。
1914年　『巴里より』（鉄幹と共著の紀行文）刊行。
1921年　西村伊作、石井柏亭、河崎なつ、鉄幹とともに文化学院を設立。11月、第二次『明星』創刊。
1923年　関東大震災のため、完訳間近の源氏物語原稿数千枚焼失。
1927年　第二次『明星』終刊。
1930年　3月、『冬柏』創刊。4月、文化学院女子部長に就任。
1935年　3月、鉄幹62歳で死去。
1938年　『新新訳源氏物語』（全訳六巻）を刊行。
1942年　5月29日、自宅で死去。
法名は「白桜院鳳翔晶耀大姉」
9月、遺稿集『白桜集』刊行。

与謝野晶子（1878−1942）

明治11年、堺の甲斐町に、和菓子で有名な駿河屋の三女として誕生し、明治・大正・昭和を短歌とともに生きた与謝野晶子。

「情熱の歌人」と呼ばれた晶子は、近代文学史上屈指の女性であるとともに、与謝野鉄幹（寛）の妻であり、11人の子どもたちの母でもありました。

明治34年（1901）に出版された『みだれ髪』は、鉄幹へのあふれる愛と青春のみずみずしさを歌いあげ、若い世代の圧倒的な支持を得て浪漫主義の代表作となりました。

『みだれ髪』（1901）

また、生涯を通して『源氏物語』をはじめとする古典文学に傾倒し、その現代語訳に情熱を注ぐ一方、女性の権利に焦点をあてた評論も多く著し、女性教育の分野でも積極的な役割を果たしました。

幅広い分野に次々と挑戦し女性の自由と自立を求めて力強く生涯を送った晶子の魅力は尽きることがありません。

YOSANO AKIKO (1878−1942)

Born into the famous Surugaya Confectionery family in Kaino-cho, Sakai, in 1878, she was a composer of tanka (thirty-one-syllable verse) through the three eras of Meiji, Taisho and Showa.
Dubbed the "Poetess of Passion", she was one of the leading figures in the history of modern literature, the wife of Yosano Tekkan, who was also a writer, and the mother of 11 children.
Her "Midare-gami", published in 1901, which sung the praises of her boundless love for her husband and the fresh feelings of youth, was highly popular among the younger generation and is considered a masterpiece of Romanticism.
A devoted student of ancient literature, she dedicated herself throughout her life to translating such classics as the Genji Monogatari (Tale of Genji) into modern Japanese. She also wrote countless essays on the rights of women and played an active role in advancing women's education.
The accomplishments of Yosano Akiko, a pioneer in the struggle for the liberation of women and a fearless activist in a wide variety of fields, seem endless.

MUCHA

夢 想（1897）

アルフォンス ミュシャ館

ALPHONSE MUCHA MUSEUM

アルフォンス・ミュシャ（1860−1939）

ジョブのポスター　1897年

アール・ヌーヴォーを代表する画家として知られているアルフォンス・ミュシャは1860年にチェコのイヴァンチッツェに生まれました。ミュンヘンで絵の勉強をしたあと、パリに出て大女優サラ・ベルナール主演の「ジスモンダ」のポスターを制作、一躍その名がパリの街に知られるようになりました。

ミュシャの作品はしなやかに流れる曲線と美しい色彩の装飾スタイルが特徴で、ビザンティンやケルトの装飾文様、祖国チェコの装飾様式が取入れられているほか日本の浮世絵からの影響が見られ、日本人に親しみやすくなっています。

また、与謝野晶子の歌の世界がアール・ヌーヴォー的な要素を色濃くもっており、ミュシャの作品は晶子・鉄幹の活躍の舞台だった『明星』の挿絵にいちはやく取り入れられていました。

すぐれたデザイナーであるミュシャは、グラフィック・デザインだけでなく、あらゆるデザインの分野に作品を残しており、『装飾資料集』『装飾人物集』はデザインの教本として今も高く評価されています。

晩年、プラハに帰ったミュシャは、祖国チェコとスラヴ民族への思いをあらわした油彩やデッサンを多くてがけました。これら晩年の作品には、スラヴ独特の象徴的な表現が見られてたいへん興味深いものです。

ラ・ナチュール　1900年

ALPHONSE MUCHA（1860−1939）

Alphonse Mucha, one of the best-known Art Nouveau illustrators and painters, was born in Ivancice (now the Czech Republic) in 1860. After studying art in Munich, he moved to Paris where he produced the Gismonda poster featuring the great actress Sarah Bernhardt, establishing his fame throughout Paris.

His works are characterized by a decorative style of gently flowing curves and beautiful colors. He often employed Byzantine or Celtic decorative patterns and the decorative modes of his native country, and because his works reflect the influence of ukiyoe, they are easily appreciated by the Japanese.

The world of Yosano Akiko's poems is strongly characterized by Art Nouveau elements and Mucha's works were often featured on the cover of Myojo, the journal that was the platform for Yosano Akiko and Tekkan.

Mucha was also a talented designer and produced many outstanding works in the field of graphic design and all genre of design as well. His Documents Decoratifs and Figures Decoratives are highly evaluated even today as design textbooks.

ミュシャ略年譜

1860年	7月24日、現在のチェコ共和国南モラヴィア地方のイヴァンチッツェに生まれる。
1871年	ブルノーの中学校に通い、その地の聖歌隊に入る。
1877年	プラハの美術学校に入学しようとするが不合格。
1878-81	ウィーンの舞台美術工房で働く。
1881年	12月、リンク劇場が焼失し、職を失なう。
1883年	クーエン=ベラシ伯爵に雇われ、エマホフ城の絵画を修復する。彼はミュシャの最初のパトロンになる。
1884年	クーエン伯爵の援助でミュンヘンに勉強に行く。
1888年	パリに出て、アカデミー・ジュリアンに入る。
1889年	アカデミー・ジュリアンを去り、アカデミー・コラロッシに通う。年末、クーエン伯爵の援助が打ち切られる。
1891年	ゴーギャンと知り合う。
1892年	著名な歴史家シャルル・セニョボス著『ドイツの歴史の諸場面とエピソード』の挿絵の依頼を受ける。
1894年	年末、『ジスモンダ』に主演するサラ・ベルナールのために最初のポスターを製作する。
1895年	サラ・ベルナールと6年間の契約を結ぶ。
1896年	連作〈四季〉をはじめ、装飾パネルを制作する。
1900年	パリ万国博覧会のボスニア＝ヘルツェゴヴィナ館の装飾を担当、銀賞を受ける。宝飾家ジョルジュ・フーケの店のためのデザインを始める。ここはアール・ヌーヴォーの室内装飾の顕著な店のひとつになる。
1901年	レジオン・ド・ヌール勲章受賞。
1902年	チェコの美術家協会がプラハでロダン大展覧会を開催。ミュシャは友人ロダンを伴い、プラハとモラヴィアを訪ねる。工芸家向けのハンドブック『装飾資料集』。
1904年	アメリカに招かれる。祖国のための制作に十分な資金を得ようとする。
1905年	工芸家のための別のハンドブック『装飾人物集』刊行。
1906年	6月、マリ・ヒティロヴァーとプラハで結婚。秋に妻と共にアメリカへ渡り、シカゴ美術研究所で講義を始める。
1908年	ボストンでスメタナ作曲の交響詩「わが祖国」を聞き、スラヴ諸国の団結と文化に捧げる決心をする。
1909年	娘ヤロスラヴァ誕生。チャールズ・クレインが『スラヴ叙事詩』の計画に賛成し、財政援助に同意する。
1910年	西ボヘミアのズビロフ城の一翼をアトリエにして、18年間『スラヴ叙事詩』の制作を続ける。20点よりなるこの大壁画群は、スラヴ諸国がヨーロッパの文化的発展に貢献した歴史上の重大時期を描いている。
1915年	息子イージー誕生。
1917年	未来のチェコスロバキア共和国の国章、および最初の郵便切手をあらかじめデザインする。
1919年	『スラヴ叙事詩』の最初の11点をプラハで展示。
1921年	『スラヴ叙事詩』5点を、シカゴ美術研究所とニューヨークのブルックリン美術館で展示し、成功をおさめる。
1928年	10月、ミュシャは『スラヴ叙事詩』20点をチェコ国民およびプラハ市に贈呈すると発表。
1931年	プラハの聖ヴィタ大聖堂の大司教礼拝堂のステンド・グラスをデザインする。
1939年	7月14日、プラハにて死去。ヴィシェフラッドの墓地に葬られる。

In his latter years Mucha returned to Prague, where he produced a large number of paintings and sketches depicting his feelings towards his native land and the Slav people. His later works embody symbolic expressions unique to the Slavs and are thus interesting.

観覧料

区　分	個　人	20人以上100人未満の団体
一　般	500 円	400 円
高校生・大学生	300 円	240 円
小学生・中学生	100 円	80 円

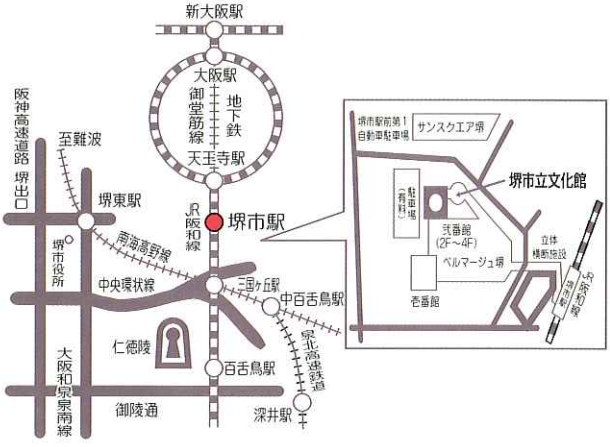
※特別の展示を行うときには、金額が変ります。
※小学生未満・65歳以上・障害者の方は無料。(証明できるものをご提示ください)

開館時間

- **AM9時30分～PM5時15分　（入場はPM4時30分まで）**

休館日

- **月曜日・休日の翌日**（翌日が土、日曜日、休日の場合は開館）・年末年始
※展示替え等で臨時休館することがあります。



■交通

- JR阪和線堺市駅下車徒歩2分
  JR阪和線堺市駅まで（快速）
  - 大阪から約25分　・和歌山から約50分
  - 天王寺から約8分　・関西国際空港から約45分
- 南海高野線堺東駅前15番乗り場（堺市役所北側）
  よりバス乗車阪和堺市駅前下車徒歩2分
  南海高野線堺東駅まで（急行）
  - 難波から約13分　・橋本から約37分
  - 天下茶屋から約8分　・河内長野から約16分

ベルマージュ堺弐番館2F～4F（JR阪和線堺市駅前）
Belle Marge Sakai, 2F～4Fl. Nibankan Building
〒590-0014　堺市田出井町1番2-200号　TEL.072-222-5533 FAX.072-222-6833
(in front of Sakai-shi Station, JR Hanwa Line)

堺市立文化館
Sakai City Cultural Hall

堺市 SAKAI CITY